磐城新聞

（二十三日夕刊）

休刊　大祭日　第一第三日曜
定價　一部二錢　一ヶ月六十錢　郵稅十五錢
廣告料　壹行六十錢　指定廿錢增
發行兼編輯印刷人　鹽[illegible]輔
福島縣平町因町十六番地
發行所　磐城新聞社
電話五六番

「幽邃の森」□□□

田母神昇

炎帝の限りなき叱咤にあ
獸として、しかも悠然と
砂漠のオアシスを思はし
める樣に
旅人に憩ひを送る森に
蟬聲はふり注げど
熱沸の白は落つれど
そこは寂として
冷氣あり、水氣ありて
旅人の心をうるほす
青綠の森

湯の岳は夏の陽を
浴びて
たかく～と照れど
湯の川上流、川上の森は
いつも靜かに人待ちて
うるみうるほひ
チョロ～と湧き出づる
泉は
森の冷氣を更新して
眞綠の梢をうるほす
小石を縫ふて迸る泉は
せきれいの尾をうかべ
泉を小砂は幽邃な樂の音
を奏して
甘き戀の私語にひたり
水すましは取り持ち顏に
跳躍し
森は一樣に謹聽す
そこは夏かへつて春の氣
あり
旅人は一樣に敬虔な氣に
溶けて
喜びにひたる
梢は靜かに珠玉をたれて
旅人の心をしめす
青綠幽邃の森

『初夏の追憶』

初夏の蜩鳴きました

春も逝き
一人できめたあの戀も
打け明けも得ず此の里に
夏も異郷になりました
一人心にしのばして
君のミハトを訪ふた時
君は不興氣にペン持つて
インクがしみるとそと濟
いた
あの春の宵も過ぎました
だけど私のひねもすに
解き得ぬ謎の一言を
思ひわぐんで旅する

海の邊の夜

綠野生

冴わた月の夜
我一人
遣る瀨なき胸を抱きて
海の邊を彷徨ふ
寂つき儘に
君の名呼べば
月影波間に
たゞよひて
時折岸に馳せ寄れど
君の答へは更に無く
濱の千鳥の
鳴くばかり
月影いとゞ冴え渡り
そよ吹く風の
肌寒く海風いとゞ
身にしみる

明日の吉凶

舊暦六月二八日　新暦七月二四日

▲一白の人　多端の日なれども秩序正しければ發展あり▲二黑の人　午前は幸運なれども午後は手を結ぶが無事▲三碧の人　之と云ふ苦はなけれども元氣つかぬ日たり▲四綠の人　我儘は動搖を生じ易し退き守るが安全なり▲五黃の人　吉日なれど目上の言を用ふれば更に～吉▲六白の人　目標とする所正しければ萬事順調たるべし▲七赤の人　注意しをりても綴みを生じ物事捗らざる日▲八白の人　姿徹の氣を一掃し發奮すれば事業大に揚る▲九紫の人　右とも左とも容易に決斷のつかぬ謎ひの日

講談　赤鞘安兵衞

東京　桃川燕二演　村田月光畫

（五）

彼の武士は小僧の顏をツク～見ると、日に曝され色は眞ツ黑こけに焦な

やつたい——「ウム年老ゆるど物事に感じ易い、世が世であつたなら槍一筋の者樣で暮せる丈けの由緒あるものが、見るも無慘な其姿で旅人の荷擔ぎとは氣の毒千萬、他人の事ながら見たり開わたりしては、我知らず涙が溢れた、望みの通りくすりは汝に取らするが」——「有がたうございます、一粒でも半かけでも願つたが、成らう事なら澤山あるだけ頂きたいもので」ズルイ小僧だ、た武家が涙を溢したのを見てもう付け上つた——「尤もである今日のしやくは今は癒つても、又後日起らぬものでも無い、得難いくすりだに依つて多く遣はす、裟へ盈い

てゐるが、眼付きなり鼻筋なり口の樣子は、安太郎の子供の時に生き寫し而も其の名さい安之助と云ひ安の一字がある、或ひは是れは我孫ではないかとフト氣の付いたのです——「ウム安之助と申すな、其方には母があらう父親の病氣ならば子供がくすりの詮議に步かうとも、母が居らば事が早く辨ずるであらうに」——「其の母が無のでございます、母親は七歳の時に病死して今では阿とうさまと私と二人切りで」——「ウム母が無いと申すかこれ～茶屋の亭主、是れなる子供は何か此邊の者か」……「へイツ～誠に可愛そうな子供で、此の先の作場道の小さな小屋に住んでゐます、親ちは手習ひの師匠ですが田家のことで弟子も多くなし夫れに病氣ばかりして居るので、此の安坊が街道へ出て旅人の荷を擔いで幾らかちゝ稼ぐやうな譯で……」……「ウム」……「夫れで暮しの足しにする憐れの身の上、此邊では安坊のことを孝行安～と專らの評判誰貰めぬものはありませぬ何うぞそのくすりを惠んでやつて下さいまし爺いも共にお願を致します」……「左樣か、イヤ安之助其方のちゝの名は何と申すぞ」……「とうさんの名は中——と言掛けたが、頻りにあたりを見廻した、安左工扱はと……「ウム中……と云ふ、ハヽア大勢の前ゝの名を名乘るを恥と心得るか、扱々悧口な奴だわい是れい參れ、是れへ」——「ハイ」——「亭主その座敷は明いてゐるか」——「ハイハイ明いては居りますが、旦那樣の入れるやうな場所では在りませぬむさくるしい所で」——「イヤ何構はぬ安之助是れい參れ」「ハイ」——「此處には誰も聞くものが無い汝のちゝの名は何と申すぞ」「ハイ、中山安太郎と申す新發田の浪人」——「ム、ツ中山安太郎…」思はず安之助の肩へ手をかけ、顎を上げて呢と其顏を見入つたが、兩眼には涙がハラ～——「ヤア、殿樣泣かし

て後々の用に致せ」安左工門門身を橫にしたが懐中から鼻紙入れを取出し、紙を廣げてその上へ悉く藥を明けた、一旦印籠を空にして置いて尙にくすりをそれへ容れる、下敷には鼻紙入れにある小粒を出して詰るだけ詰め込んだ上へはしやくの妙やくを置く、安之助は子供のこと夫等には一向心付かない——「早くくすりをおとう樣に呑ませたいかア」……「ちゝの病氣を氣遣ふ志し感じ入つた、長く止めたは氣の毒、サ、是か遣はす」——「ハイ有難うございます、殿樣どうか出してお呉んなさい、私が出すと皆持つて行つてしまいます」……「イヤ、出して持つて參らんでもよい其方の孝行に免じて手放し難い印籠ではあるが、諸共に遣はす、印籠ごと取らするに依つて持つて參れ」……「へエ、容れ物ごと下さいますか」……「左樣だ」……「又た供の方須つた時無くては困るでせう」……「氣支に及ばぬ、外に蓄へがある、早々參れ」……「有難うございます」

暑中御伺

廣澤香菊孃　菅原千鳥孃
久々にてお目見得の　浪界女流團競演大會
廣澤若菊孃
廣澤君子孃　京山菊子孃　日吉川初子孃
餘興として　都々逸　末山甚句　博多節　外數番
當ル七月二十三日　二十四日　二日間毎夜五時開場
聚樂館　電四七〇番

吉田眼科病院
平町紺屋町

○○○○
タクシーの御用命は!!!
何卒　昭和タクシーへ
（料金低廉）
平驛前　サシミ
電三四三

◎內臟外科　◎外科一般　◎花柳病科
入院隨意　自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡
安齋外科醫院
電話四三六番

貸切は
磐城タクシーへ
電話四五四番
平驛前

夜間診療
胃腸　內科　十二指腸虫病　專門　內科部
梅毒　淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
松村胃腸科醫院
（平南町電話一〇七番）

愈々海水浴のシーズンは來ました
皆さん是非…　四倉脫衣所組合へ
本年は不況の折柄特に
平 四倉 間　自動車往復！食券付
一枚金九十五錢
但し團体の際は特に御相談に應じます
◎期間……七月十日ヨリ……九月十日マデ
申込所　平町田町　初音　電話二三六番

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同　優等賞受領
鹽屋　醬油釀造元
山崎合名會社
電話一〇番

柳川
相始めました……
御一人前三十五錢
御贔屓の程願ひます
石川亭
平田町　電話四三

宮內省御用達

ヒゲタ醬油
釀造元　銚子醬油株式會社
特約店　平町田町　廣瀨支店
電話五四番

婦人病には美神丸を

確信を以て
お奬め致します

白熱的歡迎は品質の優良と藥効の偉大なるを立證す

美神丸の主治効能
白帶下　子宮內膜炎　子宮病（消渴）子宮出血
子宮痙痒　子宮糜爛　月經不順　陰門惡臭　子
宮下り及ゆがみ　肉腫痳毒に起因する不姙症等
不感症（愉よきを知らぬ病）

一日藥價僅か五錢の
自宅療法

救世の婦人藥
美神丸は（安價、簡便、卓効、秘密の四つ揃つた理想藥です）

定價表
一週分　四〇
二週分　八〇
五週分　一、八〇
十週分　三、五〇

（一）責任二大藥（美神淋藥）
試藥　七〇
定價　一週分　四、五〇
二週分　八、〇〇
他藥にて全治せぬ人々にのみ勸む
靈効實に平凡藥との比に非ず

（二）宮內家家秘法秘藥の（毒退治）
定價
試用分　一、〇〇
一週分　二、〇〇
二週分　三、五〇
三週分　五、〇〇
主治効能
黴毒、痲毒、下疳、倉毒、胎毒、遺傳毒、等特異の効果を有す……一度は是非試みられよ

地方代理店
平町五丁目角
山野邊藥局

一町一村に一特約店を募集す
速刻希望者は申込あれ

平方部會の 理髪料値下

八月一日より實施 各町村でも協議中

石城理髪業組合平町方部會は二十一日夜七時から平警察署會議室に開催出席五十餘名協議の結果過般の役員會議の申合せを標準として來る八月一日から値下げを行ひ組合決定の料金以下に値下げするものは嚴重處罰する事に決定した、新料金は左の如くで大體五錢の値下げしあるが現在十錢の値下げを行つてゐるものには結局五錢の値上げとなるものである

△總髪四十錢を三十五錢に△刈込四十錢を三十五錢に△五分刈以下三十五錢を三十錢に△子供二十錢を十五錢に△顏剃二十錢從來通り

△結髪婚禮七圓以上を六圓以上に△同出張十二圓を十一圓に△洋髪七三、五十錢を四十五錢に△桃割れ三十五錢を三十錢に△おばこ四十錢を三十五錢に△みつは四十五錢を三十五錢に△天神四十錢を三十五錢に△こうじん指三十五錢を三十錢に銀杏返し丸髷各三十錢從來通り△パック五十錢以上從來通り△アイロン十錢以上從來通り

なほ內郷、小名濱、江名方面では平町よりは幾分引下げて別に協定する筈

一本齒の高下駄で 富士登山

白銀町の三青年が 白銀分團で應援

平町白銀町青年團員平機關庫機關手坂本三四二(二五)加藤正雄(二七)外一君は高さ六寸の一本齒の下駄をはいて富士登山をすることになつたので同青年團では三十餘名の應援團を組織し登山準備を急いでゐる

一行は來る二十五日午前七時五分平驛を出發し中央線大月驛から電車によつて吉田登山口に至り一泊翌二十六日午前四時から三君を先頭に應援團もこれに續いて登山八合目富士ホテルに投宿二十八日午前二時出發頂上からお鉢廻りをなし御殿場に下山同驛で解散に決定した

平第一同窓會

平第一小學校同窓會は二十二日午後二時から同校講堂に於て開催庶務會計等の報告があつたのち川崎文治氏の趣味講演があつた

入質ばかりで 受質がない

平の質屋が失業

之れは變つた不景氣相！質屋失業する話、何時の世も不景氣食の募るにつれて繁昌するのは質屋の庫……けふこの頃もその通り、何處の質屋も入質客が押すな〳〵の盛況である……處がその受質の方は減る一方、平町內各質店につき最近の狀況を窺ふに一つの店で扱ふ一日の入質口數は大抵三十口位づゝなのに受戾しの方はせい〳〵十二、三口の處これを去年の今時に較べると入質の方は三割餘も出してゐるのに受質は反對に三割餘も減つてゐる

△

このため質屋は庫に山積し置場所に困るといふ有樣そこで質屋傳來の寶刀で、これ等質物を流さうとしても、この不景氣では買手がないあつても入質の際に貸した額ほどにならないのに、貸出資金の多くは銀行その他金融業者から可成の高利で借りてゐるが此處にも地方財界の不振が祟り思ふように借りられず困り拔いてゐる處へ最近は公益質屋といふ強敵にも脅かされるといふ、此頃の質屋は立つ瀨がないといふ質屋營業者は悲鳴を擧げてゐる、これでは質屋の失業するのも道理……好景氣時代には市內に三十餘軒もあつたものがその後一軒減り二軒減り今質やの看板を出してゐるものは僅か七、八軒である

△

これ等質やの暖簾をくぐる人々それは勞働者、下級俸給取、小商人扱ては花柳界や近在水呑百姓の群であるが殊に農村の人々は滅切殖えて來てゐるとの事、如何に農家が苦境にあるかゞ窺はれる……その質やも日一日と變つて行く、宛然不景氣の度を刻行く、かの如く……着物の類は皆出つくし家財道具、膳椀の類迄持つて行き「質屋山を築いてゐる」故にてに斷りを喰ひ悄氣て歸る人々、殘り種ではと●●●ときの大きな五十錢銀貨一枚を高價に取り貰ひたいとか、値踏みも出來ぬきれ〴〵の印半纏一枚を持つて行き十錢でも五錢でも貸して呉れど泣き落しする等むごたらしき情景は各質やの店先に繰返されてゐる

產米檢査の 講習會を

各所に開く

平米檢支所では九月一日から實施される產米檢查についてその普及を計るため近く管內各町村に吏員が出張して產米檢查の講演會をひらくこととなつたが、吏員は語る

從來の產米檢查は一俵について五錢づゝの檢查料を徵收して來たが九月一日からは廢止されるので農家としては極めて便利になつたものであるに拘らず依然檢查料が徵收されるもの位に感違ひしてるので近く講演會を開いて檢查の徹底を期すると共に今後にたける共同販賣の斡旋方を講じたいと思つてゐる云々

無料で貧困者の 法律相談に應ず

石城共濟委員會の 新事業成る

石城方面共濟會員は二十二日午前十時から平町役場會議室に開會出席十名役員改選の結果全部再選理事長昌沼錦太郎(平)理事大内民衛(內郷)同門田晴吾(平)三氏就任協議の結果貧困者の法律相談には無料で應じ委員中の門田辯護士が當る事になり各町村、各町村長任命の委員を置き連絡を取りその衛に當る事を各町村長に申出る事を決し午後二時散會した

雨晴れて

愁眉を開く

石城地方は土用入りの前日から引續いて氣溫が低下し再び梅雨模樣となつて夏眞と言ふも朝夕は肌寒さを感ずる程なので、發育極めて順調であつた稻作は、俄に氣づかはれるに至つたが、廿三日から晴れ渡つたので一般に愁眉を開いたが稻作に重大なる影響を齎すものと見て、郡農會では各町村農會に對して對策の注意を促した尙神經過敏の米穀商等は今後の成行如何によつて買占めを行はんとしてゐるので二十一日の四等米は去る十五日の大浦農業倉庫の共同販賣四等建値十圓五十錢に比し五十錢からの高値であつた

桃品評會

即賣會を兼ね 八月三日平町で

桃の名產地として東郡に漸次名聲を博しつゝある石城郡平窪村では昨年平町商業學校に開いた品評會並に即賣會にたいて意外の好成績を得たるに鑑がみ今年も八月三日元商業學校に郡農會後援のもとに品評會並に即賣會を開く事となつた

役員會

石城販賣利用

廿三日午前九時より郡農會樓上會議室に石城販賣利用組合の役員會があつた

品評會

高久村二毛作

廿七日午前九時から高久村農會主催で役場に於て二毛作品評會及び講演をなすが講士は郡農會より青山技手神谷分場より稻田技手兩氏が出席する筈

洋服の紳士が 田町で無錢飲食

支拂には一錢銅貨一枚 平署に突出さる

平町田町壽々喜亭事鈴木宙吉方へ廿二日午後十一時頃洋服着の紳士風の男が登樓し吉野屋藝者長松を相手に十一圓九十二錢を費消しいざ勘定となつて蟇口から一錢銅貨一枚を出したので宙吉が驚ろいて無錢飲食だと平署へ訴へ出たので早速拘引取調の結果右は新潟縣生れ當時住所不定鈴木岩夫(三二)で精神に異狀を呈して居る事が判明した

湯本町の 什町會

石城郡湯本町什長會では廿九日午前九時より公會堂で總會を開催する由であるが什長會は湯本町を四區に分け一區より十名宛で四十二名の會員を有し什長會の決議は町會の決議と同樣な勢力を有し湯本町民の輿論を代表するものであるこ

常磐炭見學

秋田礦山生

廿一日秋田礦山專門學校生徒廿八名は大貫、外山、安東三教授引率の下に廿二、三兩日は古川礦廿四、五兩日は磐城礦廿六、七兩日は入山礦の豫定で礦內外の見學の爲め來郡した

狂言の遺書を送る 湯本の駈落藝妓

助川署に捕はれ 兩人說諭の上放還

石城郡湯本藝妓屋つたやこと佐久間方抱へ藝妓若千代本名佐藤とり(一八)はかねて馴染の同町小野屋カフエーコック古又堅吾(三五)と駈落ち多賀郡小木津濱泉海亭に滯在中金に困り實家へ狂言の自殺遺書を送つたことから助川署で發覺說諭の上兩人を關係者に引渡した

カーバイト

勿來町の 移轉陳情

石城郡勿來町々會議員小野捨三郎氏外卅名は同町にあるカーバイト製造勿來電化株式會社が日中附近にカーバイトが散亂し、加へて震動が甚だしいので移轉勸告陳情書を廿二日夕刻保安課に提出した

刀劍保存會

平町に組織の 加藤、長谷川 酒井氏等發起

石城地方刀劍の愛刀家加藤丈夫、長谷川豐吉、酒井國三郎等各氏が發起となり今回磐城刀劍保存會を組織したが、目下會員募集中である、來る八月三日午前十時から平町住吉屋本店に於て組織準備會を開き會長、幹事、評議員等の改選を行ふ筈であるが當日は夫々刀劍を持寄り批評研究をなす筈で、役員が決定した後九月中に平町住吉屋本店に於て磐城刀劍大會を開催、磐城地方刀劍の陳列がある外、福島、仙臺、水戶、東京方面からも名刀が出品される豫定である大會當日は本郡

委員任命

平町共濟

石城郡平町方面共濟委員鈴木積善氏の辭職に伴ふて後任は二十二日小柳知事から左の如く任命された

石城郡夏井村(大國魂神社々司) 山名隆文氏

松本樓で

鰻井廉賣

平町南町松本樓では廿三日より丑の日迄鰻の蒲燒、鰻井の廉賣すること〻なつたが蒲燒は一人前壹圓鰻井八十錢で非常に美味であるとの好評

海へ。海へ。海へ。 涼を趁ふ浴客

石城各濱日增しに多く 益々賑はん

海へ海へと涼を趁ふ浴客の群は日增しに多く各濱はこゝを書入れ時に迎客準備に忙がはしい今郡下の海水浴場を紹介して見る

◇四ッ倉海水浴場

遠淺で波も小さくこの界隈きつての理想的な海水浴場であり新舞子の濱はキャンプサイトとして知られてゐる、毎年町では十二三ケ所に脫衣場を設け番人をおいし救助船や夜間の照明設備旅館の貸間斡旋などをしてくれる尙七月一日から八月末日迄既報の如く鐵道賃銀の往復二割引さいある浴場の位置は四倉驛から東に十五町自動車賃十五錢人力車卅五錢

◇小名濱海水浴場

海水浴場として好適であるが同時に築港內は水泳に適し各學校の夏期水泳練習に當てられてゐる白砂清潔で脫衣場、賣店の設備も整ひ四倉と同じく救助船もあり旅館の貸間、貸屋の斡旋などをして下れる常磐線泉、湯本兩驛から自動車の便がある

◇勿來海水浴場

白砂に茂る青松には常に濱風颯々として聲あり、涼味限りなく松川磯の明眉な風光を賞しつゝ寄せては返す波枕にひたるも又夏期中の最大享樂であらう右聘すれば古蹟勿來の關ありて老木鬱蒼として茂り瀟洒な茶亭もありこゝから菊多浦を一眸にあつめ得る勿來驛より約五六町

◇植田海水浴場

海水よく場として最も新らしきもの遠淺で波浪極めて靜かで水泳には最も適す一山を越へて小濱海水よく場がある鮑の名產地として其の名高し植田驛から自動車の定期運轉がある

石炭商 告訴さる

二十二日平署に

石城郡內郷村字綴石炭小賣商西村留吉(五〇)は平町白銀町一七酒醬油小賣業小泉源四郎に去る六月十五日以入れ一俵三十錢の石炭五十俵を十五圓で賣る約束をし內金十四圓を現金で取つたが石炭を送らないので二十二日平署に告訴された

平屠場を買收 町財源に充つ

正式買收交涉

平町では株式經營の屠殺場を買收して町營にせんと町會議員中から委員を擧げ事業の內容を調査した結果現在の經營方法に依ると一ケ年二千圓の利益金あることがわかつたのでいよ〳〵正式に買收交涉を開始することになつた

所得稅調査

委員選擧

平稅務署所得稅調査委員七名の選擧は大體十月廿日頃になるらしくなほ三ケ月の餘日あるが何分選擧好きの郡民だけに早くも內面運動に着手したが現委員中過半は立候補するほか新顏も四五を數へられてゐる

履物組合

徒弟慰安會

平町履物商組合店員並に徒弟慰安會は二十一日四倉海水浴場で催したが來會者は八十餘名あり盛會であつた

數十萬の鰯鮪を取逃した

江野網漁夫

廿二日午後二時頃四倉、久の濱間の江野網漁港へ突然無慮數十萬の鰯群が押寄せたので漁師は大喜びで破れた網まで持出して投網したが今度は重みで上らぬ仕末であつたが突然入港したのは鮪群の爲追かけられ逃場を失なつて入港したものと解つたので鰯より鮪群を捕獲せんと濱中の大小の舟を狩集めいざ御參なれと向う鉢廻で向つたところ鮪群どころか形響だに無いので今度は入港中の鰯を捕獲仕樣と戻つたら一匹も居なく靑菜に鹽とは近來のユーモア!

かみなり

◇○○屋で藝者を泊めるなんて、藝者も藝者なら○○屋も○○屋だ以後○○屋に泊つた藝者は一切料理屋では呼ばない事にすると、町中集まつて評議を決めたそうな◇若し違背した料理屋からは違約金五十圓を徵放する事として藝者屋側に談判を持込んだものだ、藝者屋でも仕方なく委細承知仕り候也で法律は即刻執行と來た、不景氣は彼女をそうさせたか◇料理の一つも出來ない○○屋があつたり、る料理屋があるので、一體座敷每に夜具を備へ付けてオレ達はどうすれば好いんだと藝妓樣があげた悲鳴の第一聲はコレ◇ところが問題は泊らぬ、ふデヒニションが六ケしいことだ「あらアタイ泊りやしなくつてよ歸つたのはまだ三時半よ」とくるだらう、宿屋にも半旅籠ってあるからね

恒例夏季謝恩第一回興行

時代映畫 松竹加茂時代派特作品 林長二郎・千草晶子 狂へる名君 全

洛陽門の下にぼんやりと佇んでゐる異樣な武士の姿がある、霞んだ空をなせ見てゐるのか……

NK日活現在派超々特作品 原作エリイザ・オラゼンシニユ 監督・田阪具隆 瀧花久子・南部章三・入江たか子・松平千鶴子 佐久間妙子・英百合子

大悲劇 此の母を見よ 全

世の女性が、母となつた人が、愛と家庭教養のみによつて生活して行く事は困難であり、實社會を遊んで行く近代的、生活戰術を學ばねばならないと云ふ思索を持たなくてはならないでせう……では此の母を見よ……

NK日活大作品 原作・西條照太郎 監督清瀨英次郎 鳥羽陽之助・葛木香一・久米讓・淺香新八郎 常盤操子・吉野朝子

時代劇 吉五郎懺悔 全

佃の牢を出た、土藏破りの名人吉五郎は戀人絹江の裏切りに依つて、世の冷たさを呪ひ、其頃幕府の重要書類が長藩士に盜み出された、吉五郎は此の書類を長藩士藏より奪ひ出さんと謀純白な織江の愛、女賊銀流しに六の秘策……共に破亂の中に織り込まれ行く……

二十四日寫眞替り

入場料 普通席 二〇 壹等席 三〇 特等席 四〇

日活 松竹 平館 電四六六

蒲燒 鰻井 特賣

土用丑の日迄本日より左記の通り大勉强特賣致します

鰻蒲燒 一人前 壹圓

鰻井 八十錢

平町南町 松本樓 電一一三番

磐城刀劍保存會生る

我國三千年來大和魂の眞髓武士道の精華である刀劍は其影を消さんとする傾向あり邦家の爲め慨歎に堪へざるため石城の愛刀家加藤丈夫、酒井國三郎、長谷川豐吉其他同好者相謀り茲に磐城刀劍保存會といふ研究と保存を目的とした團體を組織する事になつた席つて御入會下さい。

◎入會申込所 平町字二丁目 長谷川椅子店方

記

八月三日 於住吉屋本店 磐城刀劍保存會組織準備會當日役員決定 當日は夫々刀劍持寄批評研究をなす

九月 平町住吉屋本店に於て 磐城刀劍大會を開催 當日に東都刀劍の大家 本阿彌光遜氏來平講演

發起人一同

銘酒 淸世界

各炭鑛御用達 石城小名濱港 淸水屋 小野晋平 電話六番